

図書館報

第二号

昭和三十年十二月一日発行
発行所 福岡市西新町

西南学院図書館
編集人 山下和夫
印刷所 有限会社三陽印刷所

新図書館一周年を迎えて

館長 中村 弘

新しい図書館が与えられて既に一年の年月が経過した。私共は今更ながら光陰の早さと、事の成り難さとを痛意している。この一年間は図書館にとつては色々な意味で重大な時期であつたと思う。

遅々とした図書館の歩みに対してはがゆく感じて来たのは私一人ではあるまい。しかしこの遅々たる歩みの中に従来の図書館とは根本的に違つた改革が進められて来たことは注目し得るものである。

我々は協力社会の中での社会成員の自由行動の限界の認識とそれに伴う義務の意識を開架式図書館において養いつゝある。この態度は古い日本の自己中心的な学問に新しい面を生む基礎になるであろうことを私は信じている。

日本でもあまり例を見ない全館開架のシステムについては色々な面からの非難と奨励と批判を受けてい

る。これに対して答えるものは図書館の設備や図書数などではない、これを利用する学者自身の学問態度である。開架式図書館を日本の社会に存続させるか否かは今後私共に課せられた大きな責務である。

学生諸君からはよくこの制度の図書館の運営に協力して頂き、又教授各位からは進んで御指導を賜り感謝にたえない。けれども私共のオープンシステムに対する今一步の考え方の前進が要求されるのではあるまいか。例えば図書の切抜きや破損、従

来に比べて図書の取扱方が、ぞんざいになつた事、図書の持出が多くなつたことなどは考えなければならぬことであり、又洋書類の一部をクロスにして公開しないことはオープンシステムの目的を半減するものである。

この他に多くの改良すべき点が山積されていることを思うとき館員の

労苦と経営者の苦勞というものが予想される。けれどもこれらを解決するのは一に研究者の学問的態度であり、深く掘り下げて把握された人間性に対する信頼の感ではあるまいか。私は新図書館を寄附して呉れたアメリカの同信の友の心の中にはこの精神が満ちていることを考えて今私の私共の図書館奉仕の土台として念願している。

図書館ニュース

○ 六月十日、私立大学図書館協会昭和三十年度春期関西西部会が本館に於て開催され、多数の参会者が活発な論議を交換、盛会であつた。本館での開催について大学当局其他関係者の示された熱心な御援助の賜と思ひ深く感謝する次第である。

○ 七月十七日、西日本図書館学会総会研究会が九州大学に於て行われた。

○ 七月十一日より八月三十日迄、図書館専門職員養成講習が九州大学教育学部の主管で行われ本館よ

り三名の職員が出席受講した。
○ 九月三十日、私立大学図書館協会秋期関西西部会が京都市同志社大学にて開かれた。

○ 十月五、六、七日、仙台市東北学院大学に於て私立大学図書館協会総会研究発表会が行われ、図書館改善要綱など重要な問題についての審議がなされた。

○ 十一月十六日、福岡県大学図書館協議会が西南女学院短大でなされカード目録の排列について熱心な研究が行われた。

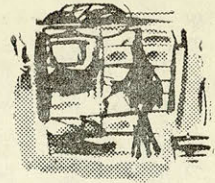
休憩室

どういふものか図書館には恐妻家が多いようである。九大のI氏、県立のK氏など何れも例外ではない。

うちの図書館でもS氏などはその最たるものであろう。此の傾向は段々若年者に及ぶと更にひどくなり、正に救い難い状態に迄到達する様だ。勿論かゝる状態は単に図書館に限つたことではない。他の凡ゆる社会に通ずる現象であり、殊に最近婦人の地位の向上が叫ばれてからは寧ろ一般化しつゝあるとさえ言えるであらう。併し乍ら私は図書館に職を奉じている人達を見る時、殊にその感を深くしてならない。他の職場の人々と比較してその傾向が著しく強いと思ふのである。試みにうちの図書館の誰でもいい、想像して見給え。家庭では平身低頭している姿しか浮んでこない。どこを見ても例外らしいものは見当たらないではないか。

もしそうだとすれば一体どういふわけでこんな状態が図書館には起つて来たのか、色々考えてみた。
先づ第一に図書館の仕事そのものに原因があるかもしれない。アメリカで著名なライブラリアンと云えば女性に極つている。此の分野だけは少くとも女性のワンマンいやワンマンの社会である。とすると此の仕事は最も女性に適した仕事であつてそのために男性は次第に女性恐怖症に陥つてゆくのではないか。その証拠にうちの職員は皆と云つていゝ程口が悪いが之も次第に昂する女性恐怖症の逃げ道又は鬱憤ばらしといわれても仕方があるまい。という見方もある。どうも之は少々感心しない考え方だ。
次には、図書の中に埋つて働いている間に段々人間が感化され磨かれてゆくといふ見方である。つまり女性尊重といふ本来の人間らしいエチケットを自然に体得してゆくのではないか。
読書が人間に及ぼす影響を考えると機械的にはあるが幾分でも常に図書に接触し乍ら仕事している人達には或いはこういふことも考えられるのではないか。こう考えると確かに前よりは幾らか安心できるようなだが……どうも之は屁理窟だね。え、何だつて。恐妻家には、同僚も皆そう見えて仕方がないナンテ、嫌な事を云うのは一体誰です。

(Y)



司書講習受講雑感

九州大学に於ける昭和三十年度
司書講習を終えて

伊藤治生

この夏の司書講習について何か書くようにとのことである。図書館人としての経歴も浅く、それにセンスの乏しい私であるのです、なからずためらつたが、これも又後輩への深い御配慮であると観じ、私の見たまゝ感じたまゝに筆をとることにした。元來司書講習の意義というものは司書としての任務をはたすに必要な専門的知識と技術とを習得させ、更にはこの講習を通して、図書館運営全般にわたる研究の機会をつくることを目的としているものである。この夏の講習を受けられた方々の中には、すでに図書館人としての深い経験や知識を持たれている人も多く、私のような未熟者をも、その一員に加えて頂き、図書館人としての必要な知識を教わり、或は人間性の根本問題にふれつゝ、図書館活動の向上発展のため励まされたりした。今日における図書館活動の機能は次第に高度に分散化されてきており個々の図書館の存在目的によりその機能もまた異なつて来るとは言え、共通問題についての図書館相互の研究会の必要性もまたそれに伴つて認められなければならない。

しかし学 (Wissen-Schaft) とし

ての体系を備えつゝある図書館学がまだ新しい分野を有する学問であり研究されていかなければならない問題領域が多いことを知り、この夏の司書講習により、更には図書館人としての自覚と確信を胸に抱き、新しい一歩をふみだした私自身にとつても希望と力づけとを与えられたものである。

開講式は七月十一日に行われた。見わたす限りまぶしい程に照りつける真夏の陽を避けながら、九大工学部前の銀杏青葉の下に腰を下して式の始まるのを待った。経験に乏しい私はこれからの講義を思うにつけ不安と期待とを交錯させながら落着けずいた。こゝは基地に近いためジェット機がしばしばごう音を残して頭上を過ぎ去つていく。

先づ冒頭の講義は九大図書館船越事務長の図書館実務である。いかに親しみ易い温かな先生の講義は主として九大図書館の運営全般にわたつて、その実際面に即して説明せられた。実務の基本的諸条件より、圖書の受入れから装備と保管、更に製本や払出しまでの注意や方法を教わつた。二日目の講義終了後先生の御案内にて九大図書館を見学させて頂

いた。始めてのよその図書館見学であり、興味と期待とをもつて先生に従つていつた。一通り事務室での説明を聞いたのち、書庫に案内して頂いたのであるが、ぎつしりと本の積まつた書架が立並んでいる。書架の間はかなり薄暗く、しつとりとした本のにほひが漂よつていく。老大な圖書を蔵しているこの書庫の中には人手不足のため寄贈圖書にして未整理の圖書があるとの由であり、又蔵書目録の作成がなかくできずにいるとのことである。同行の人の話を聞いても図書館における館員の不足ということが、一つの大きな問題となつていくことを知り、図書館に対する一般の認識を高めるよう努力しかつ勉強していかなければならないと思つた。すでに接架式をとつてい

る私達の西南大図書館に比べると、この幾重にも連なつた書架の間を請求された圖書を求めてさがさなければならぬ係員も大変なことだろうと思う。又これだけの圖書があれば曝書や圖書の消毒は更に困難ではなからうかと思つた。屋上からは板付の飛行場が見えるとのことである。室上の暑い日ざしを思うにつけ船越先生に見学の御礼をのべ九大図書館を辞した。

図書館通論については、先づ図書館学という学なる「Science」が果して図書館学として使われてよいものかどうかということが問題となつた。当初ドイツにおいて殆んど無意識的に使われたこの言葉が、その後その内容の検討により幾多の論者に

おいてその当否が論ぜられてきたのであるが、今日では一応学としての体系を備えた説明がなされているけれども、厳密な意味からすれば不充分なものであり、その限りにおいて九大の岩嶺先生が主張していられるように、図書館の現実のみか、わつていては図書館学ということとは出てこない。一応図書館ということから抽象されて考えていかなければならないという考え方がその方法論としてとられようとするのであると思う。他の社会科学の分野においてもこの学の問題は議論の余地を残しているのであり、なほ問題は将来にかかつていく。

圖書分類法は山口県立図書館の鈴木先生から教わつた。分類は図書館における最も重要な機能の一つであり、分類と目録とが相互に補足し合つて、図書館における圖書の整理、更には利用の能率をあげるものである。又今日の分類法は西欧の影響を多く受けており、日本では主として Dewey, Decimal Classification が日本化せられ N・D・C として活用せられている。分類の基本条件としては、包括的であり、記号法が単純で伸縮性があること、更には名称の妥当性などがあげられている。しかしながら現在多くの図書館において用いられている N・D・C についても問題点が存しているのであり、幾つかの批判がみられている。

即ち、(1)として記号を用いる上での宿命上、分類の論理に反する面がでて来ること。

BUCHER UND ZEITSCHRIFTEN

LIVRES ET PERIODIQUES

BOOKS AND PERIODICALS

LIBROS E PERIODICO

Overseas Publications, Ltd.

海外出版貿易株式会社

東京・大阪・福岡

図書館案内講座

其の二

本図書館に於ける英米文学洋書の分類について

(2)は区分の不当なこと。……例
えは語学・文学にそれぞれ一類が与
えられ、比較的包含領域の広い社会
科学もやはり一類が与えられている
こと。又利用の面から言えば経済と
商業とが離れ離れにあることなどが
あげられる。

(3)として長期的観点からすれば問

『文学作品は原著の国語により分
類する』のはすべての図書分類法に
於ける共通の原則である。これは最
も機械的であるから分類係と利用者
との一致を得ることができ分類効果
が最も多く期待されるからである。
ところが『エイカーズ洋書目録法
』では『もし文学書の場合には第一
に決定すべきことは著者の国籍、第
二に文学の形式である』と説かれて
いる。

このためにこの洋書目録法を見た
人は『すべての文学作品は国語によ
らず先づ国籍によつて分類すべきで

題にならないけれども、出版量が考
慮されていないということ等もある
しかしながら現実には分類に直面し
た場合、主題や形式によつて種々の
様相を呈する図書进行分类することは
難しい仕事であるとしみじみ感じさ
せられる。私のような初心者にとつ
ては殊にそうである。その上助記表

ある』と解釈されるであろう。
しかしこれは図書分類の通念から
いつて誤りであつて、原著者の国籍
によるということは極めて困難であ
る。

伝記の参考書(人名辞書やWho's
Who)には生没年と共に生地は記
されているが国籍は出ていない。
国籍は変更し得るものでもし国籍
によるとすれば、その作品を発表し
た後に国籍を変更した著者の作品は
分類を変更しなければならなくなる
しかしそれは不可能である。

Henry James も後に英国に歸化
したが生地のアメリカで分類される
原著の国語によるとした場合にも
翻譯書等で原著が何語で発表され
たか不明のものがあり、翻譯書また
は抄訳の児童図書等でそれが不明の
ものもあろう。しかし多くの場合原
著が何語で書かれたかは著者の
国籍の場合より明かである。

それ故に『文学作品は原著の国語
によつて分類する』という原則が立
てられていると思はれる。

の使ひこなしがなかなか出来ない。
図書の分類には長い間の経験と努
力がいかに大切であるかということ
を痛感せしめられた。
毎日暑い日が続いている。今年の
夏は雨が少なく、空が青い海のよう
に光つて、その中をジェット機が轟
音を立て、過ぎ去つていく。法文学

区別がつかなくなる。
当館ではいろいろと考慮された結
果英国文学を九三八米国文学を九三
八・二とし、又同一作家の作品を全
部作家別にまとめるためにラベルの
二段目に著者記号を表示する。その
記号は著者の姓三字までとり同一記
号が何人もある場合、之にアラビヤ
数字をつけて SHA 2 SHA 3 とす
る。

図書記号をつける三段目を左右二
つに分けて左の方に文字形式区分を
ローマ数字によつて示す。即ち
総記 詩 曲 小説 ツイ 記行 簡 刺 稽 集
0 I II III IIII V VI VII VIII
とし、総記の所には伝記、評伝、作
品の一般的な批評等も含める。右に
はアラビヤ数字を以て受入番号を示
す。一例を示せば

93 SHA 15 上の請求番号は英文学
の Shakespeare の戯曲で十五番目
に受入れた本という事を表示する。
以上簡単に英米文学洋書の分類につ
いて述べたのであります。

新刊書籍

金修堂

福岡市渡辺通一丁目電停前
電話西②6702番

部の三階大教室が私達の教場である
が窓辺の涼風がこひしくてならない

図書館の本質的構成要素は図書で
あり、その図書館の究極的価値は図
書の選択によつて決定せられる。岩
猿先生の図書選択法は、主として公
共図書館の立場からではあるが、図
書館がその地域社会の人々の欲求に
応じて図書を収集しようとする場合
人間の欲求にはいろいろの欲求があ
り、その間に価値の順序をつけるこ
うことは困難なことである。むしろ
人生の中から最大の幸福を、すな
わち人間性の発展に奉仕するという
立場から欲求を評価し、図書館が単
なる地域社会の僕ではなく、より高
い見地よりヒューマニティーそのも
のに奉仕するものでなければならな
い。現実の問題としては、まだ考え
る余地が存しているけれども、社会
の近代化のための図書館の在り方と
して必要であるというようなお話し
があり、勉強になる点が多かつた。
又この講習には遠くは北海道より
参加された方々もあり、受講者それ
ぞれの属しておられる図書館の現状
を知ると共に研究の機会を与えられ
いろいろと考えさせられた。特に私
達、宗教関係の図書館では研究会を
ひらき図書館運営全般にわたる諸問
題をとりあげつゝ、親交を深めるこ
とが出来た。
いつしか校庭にも赤トンボの群が
とぶようになり、私達も幾多の忘れ
得ぬ思い出を胸に閉講式の日となつ
た。教育学部を代表された関教授の
別れの言葉を聞きながら、思ひを自
校の図書館の上に馳せつゝ、この講
習を有意義なものたらしめるよう今
後努力していかなばならないと思つ
た。終りにあたり、この講習の受講
に際し、陰に陽に支援して下さいた
関係者一同の皆様にご心からなる感謝
の意を表しつゝ、この拙文を終えさ
せて頂くこととする。

新刊書籍・雑誌
の御用命は

金陽堂書店へ

福岡市西新町電停前
電話中④5690番

新着和漢書案内

(拔萃)

(昭和三十年九月、十月購入)

総記(〇〇〇—〇九九)

草野 正名

日本学校図書館史概説

理想社

マーティン、K 島田選(訳)

新聞と大衆

岩波書店

哲学(一〇〇—一九九)

バーネット、ジョン 神沢惣一郎(訳)

ギリシヤ哲学

理想社

リッチー 市井三郎(訳)

イギリス思想史

理想社

伊藤惣右衛門

行動と場の心理学

金沢書店

南 博(他)

社会と文化の心理学

(現代心理学第五卷)

河出書房

入谷 智定

新青年心理学

角川書店

牛島義友(他)

社会と職業生活(青年心理学講座第四卷)

金子書房

牛島義友(他)

青年集団(青年心理学講座第五卷)

金子書房

比屋根 安定

世界宗教史

日本基督教団出版部

比屋根 安定

日本宗教史

教文館

フルトン、アラスラー 飯島幡司(訳)

物語キリストの生涯

甲鳥 書林

ストロール、ヘンリー

波木居齊二(訳)

ルター新教出版社

ブルンナー、エミール 酒枝義旗(訳)

正 義

ブルンナー、エミール 田中理夫(訳)

神は我等の避け所

三一書房

岡田 章雄

クリシタン、バテレン

(日本歴史新書)

至 文 堂

渡 迎 善 太

イスラエル民族史

日本基督教団出版部

山 谷 省 吾

口語新約聖書略解

日本基督教団出版部

クルルソン 西川哲治(訳)

科学の時代の中のキリスト教(基督教論叢二十)

新教出版社

歴史(二〇〇—二九九)

木宮 泰 彦

日華文化交流史

富 山 房

スメドレー、アグネス 阿部知二(訳)

偉大な道 上巻 下巻

岩波書店

和歌森太郎(他)

日本文化風土記 第三卷

河出書房

大河内一男(編)

社会科学の名著(毎日ライブラリー)

毎日新聞社

法律時報編集部(編)

戦後法學文献総目録

第二集

日本評論新社

宮 沢 俊 義

日本国憲法(法律学体系コンメンタール篇第一卷)

日本評論新社

菊井維大(編)

民事訴訟法 上巻

青林書林

中山伊知郎(他)

経済学大辞典 第二卷

東洋経済新報社

北 沢 新 次 郎

経済学原 理

有 斐 閣

マルクス・エンゲルス 岡崎次郎(訳)

資本論に関する手紙 下巻

法政大学出版局

バーゲソン、アブラム(編)

ソヴェット経済力の成長

実業之日本社

安平哲二(訳)

経済企画庁(編)

経済白書 昭和三十年度

至 誠 堂

松原 藤 由

経 済 政 策 概 論

法律文化社

石田 武 雄

管理分析の基礎理論

御茶の水書房

書架、事務用机椅子、家具、裝飾

堅 牢 且 つ 優 美 な 仕 上 を 誇 る

中 上 製 作 所

福岡市西新町三丁目五七〇 電中④6501番

泉田健雄
職務権限

東洋経済新報社

オードム・H・W・横越英一(訳)

アメリカ社会学

法政大学出版局

日本経済学会(編)

経営学の再検討

同文館

マルクス・レーニン研究会(編)

レーニン全集第十二卷

マルクス・レーニン主義研究

所(訳) 大月書房

八幡昇
勞務管卷

新紀元社

日刊労働通信社(編)

戦後日本共産主義運動

日刊労働通信社

大島清

日本恐慌史論(下卷)

東京大学出版会

劉少奇著作集刊行会(編訳)

劉少奇著作集 第二卷

三一書房

高橋亀吉

大正昭和財界變動史

下卷 東洋経済新報社

バーガー、キンドウル

北川一雄(訳)

ドル不足

有斐閣

西村豁通

社会政策と労働問題

ミネルヴァ書房

西村紀三郎(編)

昭和財政史 第三卷

東洋経済新報社

石崎政一郎

フランスの労働協約法

勤革書房

森田優三(編)

統計学(経済学演習講座)

青林書院

大河内一男(他)

労働市場の研究

東京大学出版会

労働省労働統計調査部(編)

労働白書

日本統計年鑑 第六回

昭和二十九年 日本統計協会

一九五五年版

労働法令協会

自然科学(四〇〇—四九九)

オツパンハイマー(編)

岡田彰祐(訳他)

科学五十年史

みすず書房

南雲道夫

微分方程式 第一卷

共立出版

ランブルック久保昌二(訳他)

統計力学

白水社

蔵田延男

水理地質学

朝倉書店

蒲原稔治

原色日本魚類図鑑

保育社

工学(五〇〇—五九九)

藤田敬三(他)

日本の中小企業

日本評論新社

小野寛徳

資材管理

同文館

高坂憲二

航空力学教程

産業図書

日本電気協会(編)

無線工学ハンドブック

オーム社

霜田光一

マイクローエーブ

共立出版

産業(六〇〇—六九九)

棚橋初太郎

農家小組合の研究

産業図書

羽原又吉

日本漁業経済史 下卷

岩波書店

熊田敏(編)

商業英語成句便覧

研究社

栗林定次郎、岩根典夫(共著)

英文貿易実務

大盛堂書店

池田英次郎(編)

販売管理(経済学講座)

巖松堂

津田昇

貿易実務、信甲状の基礎

知識 同文館

岩田敏

会計原則と監査基準

中央経済社

木村和三郎(編)

資本著積と企業会計

森山書店

積文館書店

福岡市新天町TEL④7004・2800

東中洲 ③1584

暗室のいらない複写器

国産 独製

トーコープ コピーフィックス

能率事務器と設備

九州ダイアド株式会社

福岡市住吉向島 電②636~639

リトルトン、A、C 大塚俊郎(訳)
会計理論の構造
東洋経済新報社

東洋経済新報社

語学(八〇〇—八九九)

国語学会(編)

佐藤孝一

原価計算論
中央経済社

有坂秀世

上代音韻攷
三省堂

海運及び海運政策研究
泉文堂

佐久間鼎

日本語のかなめ
入江書院

美術(七〇〇—七九九)

高橋源一郎

故事成語諺語集解
明治書院

美術と社会
牧書店

湯沢幸吉郎

室町時代言語の研究
風間書房

校正入門
岩崎書店

中国大辞典編纂所(編)

国語辞典
第一冊—第四冊
商務印書館

浅井浅一(他)

張志公 香坂順一(譯)

中国文法基礎
江南書院

体育と人間関係
蘭書房

藤井光太郎

アメリカ言語要語集
研究社

庭球五十年
時事通信社

ボウツマ 増田貢(譯)

英語動詞テンス研究
篠崎書店

郡司信夫
時事通信社

中島文雄(編)

英文法辞典
河出書房

藤田五郎

ドイツ熟語精髄
第三書房

藤田五郎

熟語中心基礎独文解釈
第三書房

久松潜一(編)

日本文学史 上代
至文堂

片岡良一、中島健蔵(監修)

文学五十年
時事通信社

小泉荃三

近代短歌史
社

明治篇白楊

金子彦三郎

平安時代文学と白氏文集
培風館

根岸川柳

古川柳辞典 第一卷
日本新聞社

大曲駒村(編)

川柳大辞典 上、下卷
日本文学社

樋口慶千代

近松富山考
富山房

今関天彰

支那戯曲物語上、下卷
元々社

福原麟太郎

英学雑誌
研究社

中島一夫

ローレンス
研究社

野尻抱影

英文(学裏)町話
研究社

矢野禾積

ポーター
研究社

(新英米文学評伝叢書)

矢野峰人

英文学夜話
研究社

モーロウ、アンドレ

シエリイの生涯
研究社

イエイツ 山宮允(譯編)

イエイツ詩選
吾妻書房

オニール、E 石田英二(譯他)

氷人来たる

大山俊一

最近のシエクスピア
研究法
篠崎書林

鷺山第三郎

悲劇と神の問題
福村書店

ヘミングウェイ・アーネスト

老人と海
福田恒存(譯)

ウルフ・トーマス

天使よ故郷を見よ下巻
三笠書房

シエイクスピア 市河三喜(譯)

ジュリアスシーザー、
テンペスト(研究社英
米文学叢書十七)

井上政蔵

ドイツ近代文学研究
三一書房

菊池栄一(他)

ドイツ文学史
東京大学出版会

ドイッ

ソ連文芸の新思潮
国際文化研究所

シモンズ、E・J・

籾内章(譯)

ソ連文芸

国際文化研究所

図書館遂に五万冊を突破!!

図書館の施設も着々整う

学院の中央図書館として本館の蔵書数が極めて貧弱だという声が随分長い間聞かれたのであるが、先輩や同信の方々の愛と理解によつて又関係諸各位の不断の努力のお蔭で遂に蔵書も五万冊を突破するに至つた。

勿論他の諸大学と比較してみても此の冊数は決して多い方とは言えないし、部門々々を検討すると自然科学関係や語学関係などで特にその不足が痛感されるのは事実であるが、併し何としても一応此の五万冊の関門を突破し得た事は、図書館の図書が着々と充実されつゝある証左として喜んでいゝこと、思う。

本館の収容能力は九万六千冊であるから、まだ〳〵図書は充分に収容できるし現に三階閲覧室は未だ充分活用もしていない状態であるので、今後もし〳〵充実させてゆくことによつて利用者の要望に應えてゆきたいと思う。

設備の方も遅々としてではあるけれども、次第に整えてゆきつゝあることは、皆さんのご覧の通りである。教養閲覧室と英文学閲覧室はどうやら書架も標示板も並んで、一応形態は整つたわけである。あと商学閲覧室に新しい書架を備えつけることが出来れば、現在の処書架不足の問題も解消するので従来から度々要望

されてきた洋書開架の問題も解決できると思われる。ともあれ図書や設備についてまだ〳〵利用者の要望に沿えない点も多々あると考えられ、今后一層の努力を期している。

九大に図書館学講座

講師に菊池氏か

九州大学教育学部では本年度後期から図書館学の講座をおくとの事であるが、現在福岡県立図書館長菊池氏が講師に予定されている。司書講習も本年で終了し然も図書館学の講座を持つた大学も此の地方では少いのでその成果に大きな期待が寄せられている。

私立大学図書館改善要綱案なる

私立大学図書館協会では大学に於ける図書館の重要性に鑑み又従来その運営が非常にまらまらで、抛るべき根拠も少く余り顧みられなかつた処もあるのでは、一昨年の総会で私立大学図書館改善要項作成委員会を設けて鋭意研究中であつたが本年七月その案がなり、十月東北学院大学で開催の全国大会で検討がなされた。

之は図書館運営の全般に亘る基準とも云うべきものを詳細に検討されたもので、自らの図書

館を評価し、更に将来の発展に資するためよい資料であろう。勿論その中にも一、二問題点が無いでは無いが、矢張り大綱として現在の私立大学図書館のあるべき充分な姿を示したものと考えられてよい。

その中、職員に関する事項については職員を一般職員と専門職員に分け、専門職員はその資格、職務内容に於て他の一般事務職員と全く異なるから、従つてその学内に於ける地位、資格、及び待遇なども異つた充分な考慮が払われねばならないとしている。此のことは以前からも相当喧しく論議されて来た点であつて、秀れた専門職員を擁した充分な図書館運営を図つてゆくためには是非とも必要であると考えられる。之は私立大学だけに限らず全国図書館大会などに於て国立大学からも強く主張されてきたことだが必要な人材を得るために考慮するべき事であろう。

次に図書館資料に関する事項に於ては本館の図書がまだ〳〵充分でないことが痛感されるが、併し基準を遙かにオーヴァーした増加率で現在着々と充実されつゝあることは力強い感がある。

先に述べたように私立大学の運営は極めてまち〳〵従つて一概に此の改善要項が採られることを望むのも無理であるが、重要な使命を担つた大学図書館の一基準としてそれへの接近に努力したいと期している。

◇ ◇ ◇

日本経済新聞縮刷版購入

本館では今月から購入を始めた。

エンサイクロペディア

図書館にアメリカカーナの一九五五年版が入つた。従来アメリカカーナは図書館に備えてあつたがブリタニカが学研へ行つているので之と引換えにブリタニカを一揃図書館に戻して戴くこととしている。之で図書館にも学研にもアメリカカーナとブリタニカが一揃い宛備えられるわけである。

卒業論文作成に特別貸出

来年三月卒業見込の学生に対して卒業論文作成のために図書の特別貸出を行つている。

冊数は三冊迄期間は一ヶ月である希望者は申出られたい。

夜間の開館時間延長は月曜と金曜

今迄短期大学の学生のために夜間の閲覧時間を火曜日と金曜日に三十分延長して午後九時半迄とし、短大生生の要望に應えて来たが、後期は火曜にチャペルがあるため、之を月曜日に変更した。

マイク口撮影機

九大ではかねてドイツにマイク口撮影機を発注されていたが去る九月末やつとその姿をあらわした。早速その LUMO MT-1 型なるものを拝見したのであるが、百数十万円の高価なものだけに全くその能率のよさは驚嘆に価するものがある。

文献複製の必要が強く主張されている現在、九大図書館に一俵容を加えるわけで、全く羨しい限りである学院でもその必要性が叫ばれているので、本館にも堂々たる複写装置を備えるのもさう遠いことではあるまい。

多休中閉館おしらせ

年末年始の休館日(十二月二十八日より一月三日まで)を除いてあと開館していますが、十二月二十六日は図書整理及び大掃除のため午後のみ閉館する予定です。御承知下さい。

◇ ◇ ◇

和洋書籍、文房具、洋品雑貨
図書館用品、事務用器械

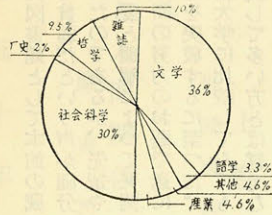
丸善株式会社福岡支店

福岡市上西町十八番地
電話福岡東③四八三一―三番
振替口座 福岡 五〇〇〇番

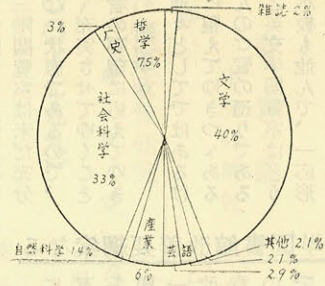
(a) 部門別利用度比較

開架式移行前後利用度比較表

移行前



移行後



(b) 貸出図書冊数比較

分類		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌	計
昭和28年	11月	11	130	22	418	22	2	64	31	45	514	126	1385
昭和29年	11月	45	195	79	856	37	8	173	77	57	1044	50	2621
昭和30年	10月	43	297	82	683	169	28	171	173	82	1055	53	2836

全般的に図書の不足は明白だが統計資料は確かに不足していると感じる。図書の不足は予算面の都合上補充の困難な事も学生にはうなづける。その点も少し学生に積極的に協力を求めても駄目だろうか。

図書館の図書不足という声はしばしば聞かれる。然し洋書特に商科系の洋書の利用率が幾%であるかという点も興味がある。確かに低率と思う。この様な点は利用者の側にも欠点がある。それは一つには洋書の書庫が開放されていない点にも起因すると思う。三階を整理し洋書のためオープンシステムを採用すると利

就職試験と卒業論文作成の問題に直面し図書館の貧弱さを痛感する。特に後者の場合自分が選定した題目について書籍の少い場合は悲劇である。何としても図書館に頼らねばならず必然的に二、三冊の本を拾い読みしそれで終わってしまったらぬ。

「声」〃図書館に望む〃
商四 飯田三千夫

西南学院大学論集第四卷
二、三合併号 文学篇

求 !!

右の論集御所持の方は時価相当価額にてお買上げたいと思えますので本館迄お申下さいます。

図書館

「声」の欄は利用者殊に学生諸君の御意見を反映させる意味で本号から設けましたので、どしどし投稿下さる様お願いします。

字数は三百字まで学部番号氏名を明

図書の不足は指摘された通りで、殊に卒業論文作成中の学生には非常に気の毒に存じています。が現在懸命に充実すべく努力しています。此の問題は早急には何とも解決がつかせませんが近い将来は利用者の御要望にこたえられる様な状態が実現できるのではないかと思います。

「答」

図書の収集には関係者卒業生への寄贈依頼など出来る丈幅広くやっています。寄附依頼など出来る丈幅広くやっています。寄附依頼など出来る丈幅広くやっています。

利用率も多少上昇すると推測するのだが要するに利用するべきための図書館で利用者の学生の意見を統計的にとり又発表する事が重要な点と思考。

★★★

十月一日に予定していた第二号がのびのびになつて遂に二月も遅れてしまつた。その間のいろいろなニュースも全く古くなつて今更載せるのもと考えられたものさえあつたが、今後は少くとも季刊位は守つてゆきたい。関係者並びに利用者の御協力を願つてやまない。

次号からは新着書案内は別にプリントで出して行き、館報は四頁に縮少する積りである。又その中に幾らかのスペースをとつて文芸欄を設けたいと思つている。

(山下記)

記の上、投書箱に入れるか奉仕室迄持参して戴ければ結構です。

編・集・後・記

三陽印刷所

福岡市西新町二丁目二九五
電話 ④ 一一八

限社
有会